

# SSKU YKRふあみりー通信

◇2019年12月号 No. 75◇  
編集：特定非営利活動法人  
全国薬物依存症者家族会連合会  
〒121-0813  
東京都足立区竹の塚5丁目18-9  
竹の塚マンション207  
TEL03-5856-4824  
FAX03-5856-4827  
<http://www.yakkaren.com/>

令和元年度文科省委託依存症予防教育推進事業 **10月27日（日）**

## 依存症予防富山教室開催される



文科省の委託を受けた令和元年度依存症予防教育推進事業「依存症予防富山教室」を、10月27日富山県教育文化会館にて開催。

富山市・富山市教育委員会・富山県・富山県山教育委員会から後援を受け、富山市立の11の中学校や県立高校、県内全保護司の方々等関係機関にチラシを配布。前後に同様のテーマでの催しが開かれていたためか参加者は多くなかったものの、登壇者と参加者の発言交流ができ、保護司の方が5名参加、教員関係者から「愛情と承認のメッセージをどう子どもに伝えていくか」という言葉にドキッとした」等感想が出された。

### 依存症当事者やその家族の体験や思いが、参加者に伝わり・・・

まず登壇したのは富山ダルク施設長。「小6まで半袖半ズボンの人気者。でも、中学に入るところから兄に負けると親から承認されなくなるのではないかという恐怖感や友達に認められたいという焦りの中、一人が怖くなり、卒から外れたくなくてカッコいい先輩の勧める“薬”に手を出した」と語り初め、そこから薬を使い続けた14年間の苦闘の年月を経て、現在ダルク施設長として「自分自身に向かい合い、仲間と共に薬を使わない生活をしている。地域の人との交流を大切に、薬物依存症は回復できる病気だと伝えていきたい」と語った。

次に、あなぐまの会のSさんが、高校2年生の次女のネット依存に苦しんだ日々を経て、ネット依存症の親の会を立ち上げ「自身をコントロールするのは大人でも難しい。法整備や教育の徹底が必要」と訴えた。（体験談4P・5Pに掲載）

金沢家族会のZさんは、息子がアルコール依存症の診断を受け5年間で7回延べ458日の入院やスリッパ（再使用）の繰り返しを経て、「5年

前から富山ダルクで回復の航海中」と語り、厳格で留守がちだった父親の自分を振り返りながら、「薬物依存の治療は困難です。手を離すことから回復が始まる。家族会は『家族の人生を』歩むための場。過去と他人は変えられないが、未来と自分を変えられる。ぜひ家族会に」と訴えた。

基調講演では、子どものネットリスク研究会



の本間史祥先生が、「小手先の解決策でやってはダメ」と中学教師としての自らの失敗談も語りながら、「子どもたちのネット利用の実態」「なぜハマるのか？」「依存・健康被害問題」

を明らかにし、ひろメンタルクリニック奥田宏



院長が、諸外国の例にもふれ「依存症を診てくれるところ少ない。増やせないか。医療も地域で

連携して見守るシステムが必要」と語った。



登壇者全員のトークセッション

